

地域に目を向け、政治に関心を高める社会科学習
— 香取市の東日本大震災からの復興を通して —

1. 設定理由

児童は歴史については興味をもって取り組むことができるが、政治の働きについては、イメージがあいまいで、関心が高いとはいえない。そこで、身近な題材である東日本大震災の香取市や千葉県、国などによる災害復旧・復興の取り組みについて調べることにより、政治は国民生活の安定と向上を図るために、大切な働きをしていることを理解できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

- 地域の人材を活用したり、香取市の災害復旧から復興への取り組みを具体的に提示したりすれば、切実感をもって学習に取り組み、政治の働きに関心を高めることができるであろう。

3. 研究内容

- (1) 教材の工夫
- (2) 地域人材の開発
- (3) 調べ学習を中心とした主体的な学習
- (4) 授業実践による検証

4. 結 論

- 地域人材を活用したことにより、児童の政治の働きへの関心の高まりがみられた。「公助・共助・自助」の大切さを実感することができ、行政の働きを通して、政治への理解が深まった。
- 香取市の災害復旧の取り組みに関する資料を具体的に提示したことにより、切実感をもって意欲的に調べようとする姿が見られた。香取市の災害復旧から復興にいたる取り組みに関する資料を具体的に提示したり、インタビュー活動を取り入れたりしたことで、児童は主体的に学習することができた。学習後の感想には、社会参画への意識の高まりが見られた。
- 身近な政治と国の政治との関わりについての理解は、個人差があり、十分とはいえない。
- 教員の提示した資料を用いて調べることはできたが、児童自身が資料を収集することは難しかった。
- 地域人材を開発・教材化することは、地域の方と協力的な関係を継続していくことが前提になる。今回の授業を単発のものとしせず、継続的な実践につなげていくためにも、職員全体での研修を行う必要がある。

1 研究のテーマ

地域に目を向け、政治に関心を高める社会科学習
— 香取市の東日本大震災からの復興を通して —

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

小学校学習指導要領解説社会編の第6学年の1目標(2)「日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。」2内容(2)ア「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること。」を受けて設定した。内容の取扱いについては、「ウ」「アの「地方公共団体や国の政治の働き」については、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から選択して取り上げ、具体的に調べられるようにすること。」と明記されている。

そこで、東日本大震災の災害復旧の取組を取り上げることで、このねらいを達成できるようにしたいと考えた。

(2) 学校教育目標から

本校では「心豊かでたくましく生きる児童の育成」をめざしている。めざす子ども像は、①よく考え進んで学習する子②心豊かで思いやりのある子③健康でたくましい子である。この目標を達成するために、社会科の学習において、課題に対して資料を活用して考える力を高めることは、学校教育目標達成のために効果的であると考えた。

(3) 児童の実態から

児童は歴史については興味をもって学習にとりくむことができるが、政治の働きについての関心が高いとはいえない。児童は入学前に被災し、震災後の不自由な生活を経験しているが、その記憶は薄れつつある。また、復旧・復興がどのようになされたのかは、全く知らないと言ってよい。そこで、東日本大震災の香取市や千葉県、国などによる災害復旧・復興のとりくみについて調べることにより、身近な政治に関心をもち、政治は国民生活の安定と向上を図るために、大切な働きをしていることを理解することができるようにしたいと考え、本主題を設定した。

3 研究目標

地域に目を向け、政治に関心を高める社会科の学習指導のあり方を、香取市の東日本大震災からの復興についての授業実践を通して明らかにする。

4 研究仮説

- 地域の人材を活用したり、香取市の災害復旧から復興へのとりくみを具体的に提示したりすれば、切実感をもって学習にとりくみ、政治の働きに関心を高めることができるであろう。

5 研究内容

- (1) 教材の工夫
- (2) 地域人材の開発

(3) 調べ学習を中心とした主体的な学習

(4) 授業実践による検証

6 研究の実際

(1) 教材の工夫

手立て① 学習事例として「災害復旧の取組」を選択し、地域の事例や資料を教材化することで、児童の興味関心を高め、より切実感をもって学習に取り組めるようにする。

教科書教材では、「地方公共団体や国の政治の働き」を調べる事例として、「社会保障」「災害復旧の取組」「地域の開発」が例示されている。東京都世田谷区の事例をもとに、「社会保障」の一つである子育て支援事業を調べることを通して、暮らしと政治の関わりを学習していくが、この社会保障の事例の代替教材として、岩手県釜石市の事例が取り上げられている。東日本大震災後の復旧のとりくみについては、地域の資料も多く、また、家族から震災当時の話を聞くことができる。そこで、香取市の事例を取り上げることで、児童にとってより身近に感じられると考えた。

選択にあたっては、本学習の目的は政治の働きを調べることであり、防災教育ではないことに留意して、資料を取り扱うようにした。

東日本大震災において、香取市は液状化により多くの家屋が半壊し、ライフラインが麻痺。香取市佐原区では、歴史的建造物の2/3が被害を受けた。児童の生活する新島地区も、液状化により、家屋のみならず農業用水と水田も液状化による深刻な被害を受けた。校舎や校庭などの教育施設も罹災している。当時、6年児童は5、6歳であったため、被害については断片的な情報しかなく、当時のことや、復旧が始まるまでの不便な生活の記憶は薄れつつある。児童にとっては、身近な場所が被害を受けており、当時の様子が写真や動画等の資料として残っていること、震災からどのように復旧・復興していったのかを身近な人から聞くことができることなどから、東北の事例ではなく、香取市の事例を取り上げれば、より切実感をもって学習にとりくめるのではないかと考えた。

学校に残る資料として、写真や動画などの映像資料を活用したことは、被災した人々の思いや願いを想像する場面で効果的であった。隣接する新島中学校は、校舎が損壊する大きな被害を受けて使用不能になったことから、仮校舎が建つまでの間、生徒は小学校で学校生活を送っていた。

その他に、市内の歴史的町並みが揺れや液状化によって大きな被害を受け復興していく様子を記録したDVD（東京情報大学映像ゼミナール作成）が残っており、それを視聴した。児童がよく知る施設や場所が、かつて大きな被害を受けたが、現在は元通りになっていることに気付き、「誰が、どのようにして直したのだろう。」という疑問や、「国が直したのではないか。」「市役所が中心になって直したと聞いた。」「専門家に依頼した。」「地域の人たちが、自分たちの力で直したのではないか。」などの予想をすることができた。

ア 写真・動画等の資料の活用

○ 市役所から借りた資料

【歴史的建造物の損壊】



【新島地区の水田の液状化】



誰が直したのかな？持ち主？地域の人？市役所の人？国？

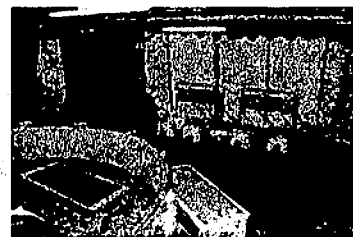
○ 学校に残る資料

【校舎が半壊した新島中学校の様子】



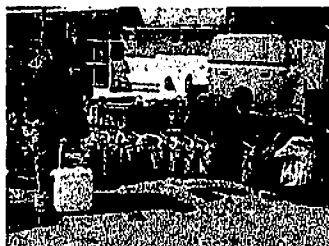
新島中学校は校舎が壊れて、使用できなくなっ
たらしいね。中学生は新島小学校の校舎を借りて
生活していたよ。

【自衛隊による支援（給水・入浴支援）】



自衛隊の支援があったけれど、誰
がどのように依頼したのかな。

【中学生のボランティア活動】



【学校周辺の様子】



【埼玉県の給水車】



【避難所での炊き出しボランティア】



埼玉県からの給水車もいる。
避難所が開設されたようだけ
れど、食事などの支援は誰がし
てくれたのかな。

【新島中学校の「東日本大震災」への対応】

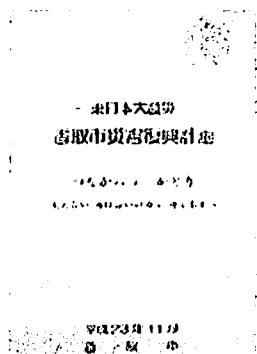


地盤の液状化で、校舎が大きく壊れて危険
だった。2年間は、プレハブで生活をしてい
たんだね。今は、新しい校舎で生活できてい
るよ。どのように復旧していったのかな。

イ 香取市発行の冊子やホームページの活用

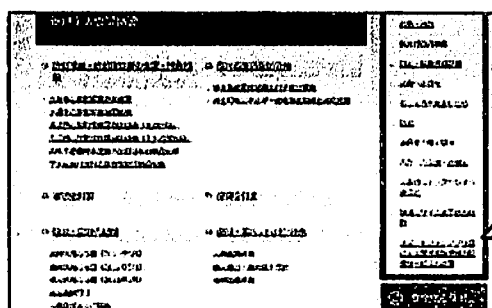
香取市は「災害復興計画」をはじめとした東日本大震災関連の情報を市のウェブサイト上に公開している。これらの情報をもとに、香取市の震災の被害状況や復旧・復興の過程を調べることができた。

○ 「香取市災害復興計画」 ○ 「東日本大震災 ～香取市の記録～」



災害復興計画を作るまでには、たくさんの市民が意見を出し合っていることがわかるね。

○ 香取市ウェブサイト 東日本大震災関連のページ



災害復興計画だけでなく、復興までの記録も見ることができる。香取市の東日本大震災の情報は、ここでも調べられるね。

(2) 地域人材の開発

手立て② 児童がよく知る地域の方々からの話を教材化することで、より身近に感じられるようにする。

授業者自身が同学区で勤務中だったことから、香取市新島地区の復旧から復興に至る経緯を体験している。当時を知る方々を、地域人材として活用するためのパイプ役を果たし、開発・教材化しておくことは、継続的な研究・実践のためにも、有意義なのではないかと考えた。

教材の作成にあたり、まず初めに、香取市役所の香取市総務企画部企画政策課企画調整班を訪ねた。震災から5年が経過していることから、当時の対応に当たった方は、部署を異動しているので、震災に関連した膨大な資料の中から何を重点的に教えていただくのかを、明確にする必要があった。

調べていくうちに、震災発生直後の混乱の中、市役所の職員が、自ら被害状況について直接情報を収集していたこと、香取市は揺れによる液状化の被害が深刻であったこと、その中でも、自治会長や町内会長をはじめとする地域で協力し合い、応急復旧していったことがわかった。その後の復興に至るまでは、被害の状況を県や国に伝えるための努力が不可欠だったことも知った。

さらに、教材作りを進める中で、災害復興会議のメンバーとして参加した方が、新島地区にいることを知り、市民の立場から復興に携わった経緯について取材した。住民の願い

をかなえ、社会の問題を解決するために、さまざまな働きをするのが政治だということを、児童が身近に感じられるようにしたいと考えたからである。

また本校は、地域の方と交流する行事が多く、登下校見守りボランティアや、総合的な学習の時間や家庭科などのゲストティーチャーとして、たくさんの地域の方々が児童と積極的に関わろうとしてくれている。そこでその身近な方々が、市や他の住民と協力して、復興に向けて取り組んできたことがわかり、政治が身近なものであると感じることができた。

児童は、どのように復興したのかを予想する場面では、「国が直した」「専門家に依頼した」「自分たちで直した」など、あいまいなとらえ方だった。しかし、市役所の方から話を聞いたり、復興会議についての話を聞いたりすることで、香取市の復興のために、市が住民と協力して県や国に行った具体的な働きかけや、そこに税金が使われていることを理解することができた。



【市役所での調査】



【震災発生当時に復旧の対応をされた方々】



【災害復興会議に参加した地域の方】

(3) 調べ学習を中心とした主体的な学習

手立て③ 具体的な事例を取り上げて実際に調査する活動を展開することで、児童が主体的に学習できるようにする。

政治に関する学習は、概念的、抽象的になったり、細かな用語や仕組み、数字を覚えたりする学習になりがちである。そこで、学校や市立図書館、市の記録など、地域に残る東日本大震災に関する資料を活用したり、市役所の方に話を聞くなどのインタビュー活動を取り入れたりした。身近な事例を取り上げて、さらに実際に具体的に自ら調査をする活動を展開した。そうすることで、児童は主体的に学習することができた。また、学習後には「国は、たくさんの人たちが協力し合って成り立っていることがわかった。」「私たちの暮らしにはたくさんの人がかかわっていて、私も国の一人として協力できることはしようと思った。」「わたしたちのくらしは、税金や市役所の方と市民が協力して成り立っている。みんなで助け合うことが大切。」など、社会参画への意識の高まりが見られた。

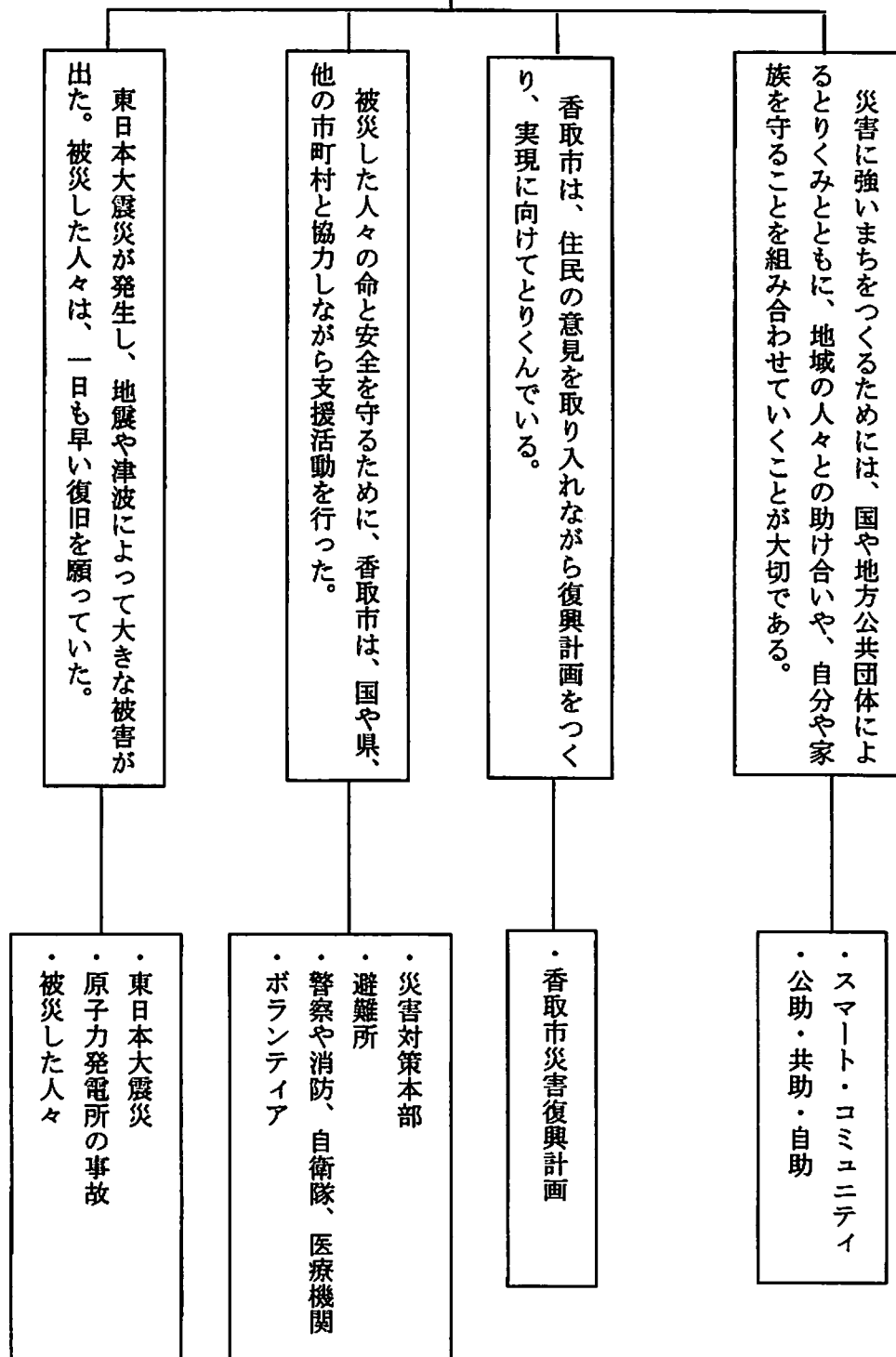
(4) 授業実践による検証

ア 検証する単元 災害からわたしたちを守る政治 (第6学年)

イ 教材構造図

考えてわかること (中心概念)

国民の暮らしは、地方公共団体や国の政治と深く結びついており、地方公共団体や国は、災害から国民の命や暮らしを守るために重要な働きをしている。



ウ 小単元の目標

- 人々の願いの実現や社会の問題の解決に関わる政治に関心をもち、進んで調べようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 被災者の願いと政治のとの関わりについて学習問題を設定し、表現している。 【社会的な思考力・判断力・表現力】
- 復興を進めていく上で大切なことや、災害に強いまちづくりを行うために必要なことを考えている。 【社会的な思考力・判断力・表現力】
- 被害を受けた地域に対して行われた緊急支援や復興へのとりくみについて資料を活用して情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。 【観察・資料活用の技能】
- 災害から国民を守るための政治を理解している。 【社会的事象についての知識・理解】
- 災害に強いまちづくりを行うためには、政治の働きだけでなく、自助・共助も必要であることを理解している。 【社会的事象についての知識・理解】

エ 単元の指導計画（7時間扱い）

	主な学習活動・内容	指導上の留意点・評価	資料
つかむ 事象観察 問題構成 (2)	○ 東日本大震災による被害を調べ、被災者の願いを想像する。 ○ 香取市の東日本大震災による震災状況を知る。 ○ 被災した当時の人々の思いや願いを想像し、願いをかなえる政治の働きについて学習問題を設定することができるようにする。	・人々の願いの実現にかかわる政治の働きについて考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 (発言・行動観察) ・被災者の願いや政治の働きについて学習問題を考え、表現している。	・宮城県の写真 ・東日本大震災の被害がわかるデータ ・香取市の写真 (被災直後・現在)
	災害によって被害を受けた香取市の人々の願いは、どのような政治の働きによって実現されていくのだろうか。		
しらべる 自力解決 (4)	○ 香取市が受けた被害を調べる。 ○ 被災した人々や施設のために市や県、国などが行った緊急支援を調べる。 ○ 被災地に対する支援のしくみを調べる。 ○ 人々の願いと政治の働きのつながりについて話し合う。 ○ 香取市復興計画がつけられるまでの過程を調べる。 ○ 香取市復興計画の中から、ライフライン復旧や学校施設の復興への取組を調べる。 ○ 香取市役所の人の話を聞き、復興を進めていく上で大切なこと	・資料などから、香取市に対して行われた緊急支援について読み取ったり、まとめたりしている。 【技能】 (行動観察・ノート) ・災害で被害を受けた国民の生活を守るための政治の働きを理解している。 【知識・理解】 (ノート) ・復興を進めていくための行政の働きと、住民の願いとを関連付けて考えている。 【思考・判断・表現】 (ノート)	・教科書 ・資料集 ・香取市復興計画 ・東日本大震災の記録

	を考える。 ○ 香取市災害復興会議に参加した市民代表のお話から、復興を進めていく上で大切なことを考える。 ○ 災害から自分たちの命や暮らしを守るためには何が必要かを考え、話し合う。 ○ 災害に強いまちづくりを行うために大切なことを考え、まとめる。	・復興を進めていくうえで大切なことや、災害に強いまちづくりを行うために必要なことを考え、表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・発表・ノート)	
まとめる 比較 (1)	○ 学習問題の答えを自分の言葉でノートにまとめる。	・震災復興のとりくみと政治の働きがわかるように関係図にまとめることができる。 【思考・判断・表現】 (ノート)	・ノート

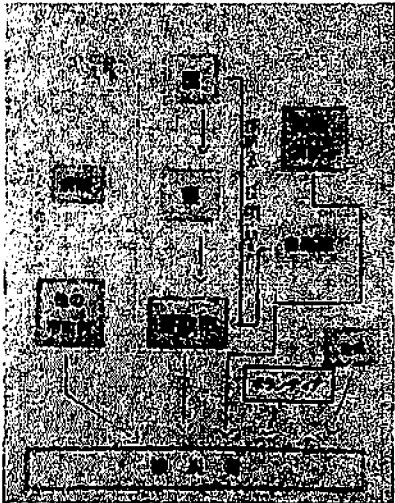
オ 展開 (4 / 7 時間)

(ア) 目標

- 香取市で行われてきた復興へのとりくみを調べ、市民の願いや意見を取り入れながら計画がつくられていることに気付くことができるようにする。 (関心・意欲・態度)
- 復興を進めていくための行政の働きと、住民の願いとを関連付けて考えている。 (思考・判断・表現)

(イ) 展開

時配	学習活動と内容	○支援 ☆児童の反応	資料
5	1 学習問題と予想を確認し、どんなことを中心に話を伺えばよいかを共有する。 災害によって被害を受けた香取市の人々の願いは、どのような政治の働きによって実現されていくのだろう。	○ 香取市の復興に向けて、どのようなとりくみを行ったのかをつかめるようにした。	・教科書 ・香取市復興計画 ・東日本大震災の記録
35	○ まちの復興はどのように行われたのかを予想する。 ・政府が直してくれた。 ・市が直した。 ・計画は、市役所の人を立てた。 ・税金が使われた。 ・地域の人、ボランティアなどが協力した。	○ 予想が調べることの道筋になっていることをおさえ、何を調べるのかを確かめた。 ☆ 「道路は国土交通省が直した」 「みんなが力を合わせた」 「自分たちの力で直した」 「専門家が直した」などの予想があった。	

5	2 市役所の方のお話を伺い、もっと詳しく知りたいことについて質問する。 (事前に出ていた質問) ・東日本大震災では、どのような機関と連携をしたのか。 ・自衛隊が支援を行っていたが、誰がどのように要請したのか。 ・東北地方では、震災後、ボランティアの支援が行われたが、香取市はどうだったのか。	○ 被害状況ではなく、市民の不安や不自由さや、市のとりくみについて考えながら話を聞くように声をかけた。 ☆ パワーポイントを使って具体的に説明していただいたので、児童からの質問は少なかった。 	
25	3 わかったことをグループで共有する。 ・液状化の被害は甚大だったので、国や県には市長が中心となり、働きかけた。 ・避難所生活を送る人がいた。 ・ボランティアの支援があった。 ・他県が復興に協力してくれたことがわかった。 ・たくさんの機関と連携することで、少しでも早く人々が必要な支援を受けられた。	○ 市役所でお話を聞いた後、学校に戻り、すぐにまとめる学習を行った。 ☆ どんなことがわかったのか、メモをもとにグループで確認をすることができた。	・ノート
10	4 相関図を作り、各機関の連携についてまとめる。 	○ 相関図を作ることで、国・県・市の連携をとらえられるようにした。 ☆ 国・県・市が相互に連携していることが迅速な対応に結びついていることをとらえることができた。	・相関図 シール

10	5 学習のまとめをし、本時の感想を書く。 ・市だけでは復旧は難しい。 ・国の政治も関わっていた。 ・災害が起こった時、お金や技術で助けてもらうためには、色々な所をお願いをする必要があることがわかった。	○ 調べた事実を、学習問題や予想と結び付けて自分なりに根拠付けながらまとめるように声をかけた。 ☆ 震災の被害だけでなく、さまざまな機関が協力し合って復旧が進んでいったことに気付くことができた。	
----	---	---	--

7 研究の成果（○）と課題（●）

- 地域の教材を扱ったことで、中学校や小学校、地域の道路などが今、元の姿を取り戻しているのは、復興に向けて、市が住民の願いや意見を取り入れながら、計画を立て、国の協力を受けて実行しているということや、たくさんの人が協力して、もとの暮らしに戻るよう努力していたことに気付くことができた。
- 地域人材を活用したことにより、児童の政治の働きへの関心の高まりがみられた。「公助・共助・自助」の大切さを実感することができ、行政の働きを通して、政治への理解が深まった。
- 香取市の災害復旧から復興にいたるとりくみに関する資料を具体的に提示したり、インタビュー活動を取り入れたりしたことで、児童は主体的に学習することができた。学習後の感想には、社会参画への意識の高まりが見られた。
- 本教材を取り上げたことで、興味をもち学習にとりくむことができたが、身近な政治と国の政治との関わりについての理解は、個人差が大きく、震災の被害への感想しかもてない児童も出てしまった。
- 教員の提示した資料を用いて調べることはできたが、児童自身が資料を収集することは難しかった。
- 地域人材を開発・教材化することは、地域の方と協力的な関係を継続していくことが前提になる。今回の授業を単発のものとせず、継続的な実践につなげていくためにも、教職員全体での研修を行う必要がある。

8 参考資料

- 『香取市市政要覧 2012 かとり発見伝』（発行 千葉県香取市／編集 秘書広報課／制作 株式会社エリート情報社／発行日 2012 年 3 月）
- 『一東日本大震災一 香取市災害復興計画』（発行 千葉県香取市／発行日 2011 年 11 月）
- 『まちは生きている ～佐原・復興観光のおもい～』（制作 東京情報大学映像ゼミナール／協力 プラットフォーム佐原）
- 『「東日本大震災」への対応』（編集：香取市立新島小学校／2013 年 11 月）

資料編

【資料1】市役所で当時災害復旧を担当した方の話

【資料2】消防署に勤務していた方のお話

【資料3】香取市災害復興会議に参加したNさんの話

【資料4】アンケート

【資料 1】市役所で当時災害復旧を担当した方の話

【香取市の被害状況と、その復旧の過程についての説明（概略）】

香取市は東日本大震災の震源地・宮城県沖から約320kmの距離にあり、震度は5強。
また、その約30分後に発生した茨城県沖の余震でも、ほぼ同じ震度5強。
この2つの地震により、香取市では大きな被害を受けた。

香取市の被害状況

●建物被害 約6,000棟

全壊 223棟

大規模半壊 1,111棟

半壊 1,412棟（平成24年7月31日現在）

●道路被害 約570箇所

●上水道被害

断水世帯数 19,768世帯

断水解消まで 37日間

●下水道被害（影響戸数）

公共下水道 1,525世帯

農業集落排水 255世帯

●各種公共施設等の被害総額

約148億円（H24年3月までの補正予算総額）

さらに増え約200億円に上る見込み

・米の作付不能面積 水田全体の約3割に当たる 約2,500ha

・収穫量 約1.4万ト減

・収穫量減による損害額 約28億円

国への要望

●文部科学大臣へ要望(4/5)

●財務大臣への要望(4/5)

●国土交通大臣へ要望(4/12・28、6/6)

●防災担当大臣へ要望(4/12・28、6/6)

●厚生労働大臣へ要望(6/6)

●総務大臣へ要望(6/15)

●内閣総理大臣へ要望(10/31)

市民の願いを取り入れる

●市民アンケート（無作為抽出）

6月実施、回答数：794人

●液状化被害地域に係る災害復旧説明会

7月に7回開催、参加者：延べ410人

●市長・市民復興対談

7～9月に7回開催、参加者：延べ93人

●区長・町内会長等意見交換会

9月に4回開催、参加者：延べ160人

【資料2】消防署に勤務していた方のお話

震災があった当時は、山田の消防署に勤務していました。

災害の復旧などは市役所が土木建築会社などに依頼して、行っていたので、消防は、道路などの応急復旧には直接関わっていません。基本的には通常の業務でしたが、それに加えて、震災直後は、断水になったため、どの消火栓が使えるか、などの点検や、見回りを行っていました。

消防団も、自主的に見回りをしていました。見回りには、震災後に増えた空き巣などの被害を防ぐ意味もありました。

【資料3】香取市災害復興会議に参加したNさんの話

震災が起きたのは、ちょうど種まきの時期でした。

わたしたちは、種まきの準備をしていて、地震にあいました。ものが落ちてきて、危ないので外へ避難すると、近所の家の屋根瓦がザーッと落ちていくのを目のあたりにしました。「大変なことになった、これからどうなるのか、米作りはどうしよう」と考えてしまいました。



田んぼは、揚水機場から延びた水道管の蛇口から水を入れます。それぞれの田んぼへは、大元の本管から枝分かれした枝管が延びています。3月11日の震災では、その本管も、支管も、全て破裂して使えなくなってしまいました。



田んぼによっては、液状化や陥没もありました。米を作るためには、田んぼは平らになっていなければならないのですが、それが何十センチも下がってしまったところがありました。深さが異なる場所があると、除草剤が効きません。それで、土を入れたり、部分部分にあぜなみを入れたりして、平らなところをつくり、なんとかしていました。いまだに、直さずに米を作っている人もいます。

水が出なかったので、農家はガソリンエンジンで動くポンプを用意しました。排水路の水をそのポンプで田んぼに入れて、代かきをしていました。(これは震災直後から1年間続きました。) 上下水道がだめになったので、震災直後は、川の水をポンプでタンクに汲み、お風呂に入っていました。

そんな状況なので、なかなか水道が出ませんでした。種まきには、上水道のきれいな水が必要なので、種まきの時期は1か月ほど遅れてしまいました。

そういう被害があったので、8月に開かれた1回目の災害復興会議では、市に要望を出しました。

会議に参加することになったときには、「香取市のほかの地域の被害はどのようなだろうか」と気になりました。しかし、新島地区の被害は、特にひどかったことがわかりました。たとえば、旧湖東小の周辺は、もともと「ぶんぬけ」と呼ばれる、洪水で何度も堤防が流されたことのある場所で、昔は池のようになっていた場所でもありました。そういった場所は田ん

ほだけでなく、土手や道路が壊れるなど、たいへんな被害があったのです。

「早くどうにかしてもらいたい。でも他の地域のこともあるし——」たくさんの被害がありましたが、まずは、住まいやライフラインを元に戻すことが大事だと思いました。

市長さんは、会議で、他にも出たみんなの意見をまとめてくれました。今は、95%ぐらいは直っているという実感があります。

種まきや収穫ができたときには、すごくうれしかったです。米作りは自分たちの生活の支えです。「ああよかった」と心から思いました。

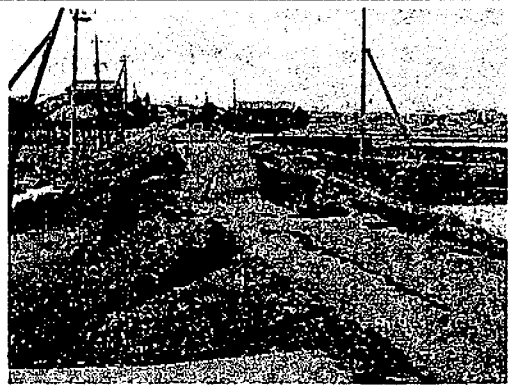
今、震災から5年が経ち、香取市や若い人にも考えてほしいことが二つあります。それは、もう一度、防災について見直すことです。

災害が起きたとき、どこにどのように集合するか、など、意外とわからない人が多いと思います。地域で総合防災訓練など実施していますが、まだ十分ではない気がします。

もうひとつは、地域の連帯の大切さです。今は、核家族化が進み、若い人が減り、どんどん地域の行事なども減ってしまっています。けれども、いざというときに、安心して対応できるように、これから、地域の連帯が、ますます必要になってくるのではないのでしょうか。

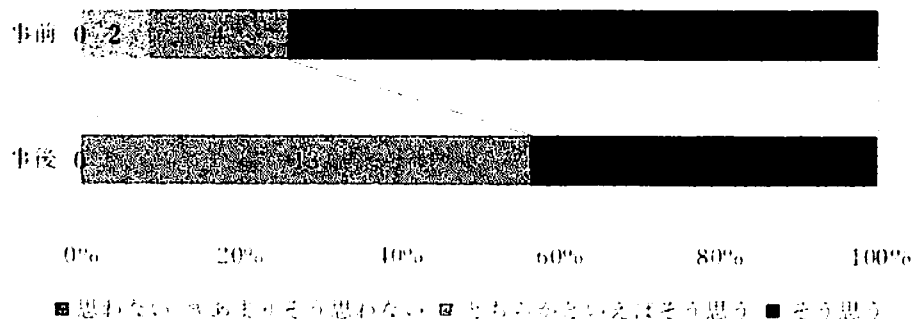
家の前の道路は、液状化し、マンホールが飛び出して、大量の砂が吹き出していました。ダンブー台分はあったでしょうか。近所の人たちと、協力して一輪車で運んで片付けました。

このように、いつ起こるか分からない災害から、わたしたちの命や暮らしを守るためには、国や市町村の進めるとりくみとともに、地域の人たちや家族と助け合っていくことが大切だと思います。



【資料4】アンケート（男子7人、女子16人 計23人）

1 社会科の学習で学んだことが、自分達の暮らしにかかわっていると思いますか。



＜事後アンケートから＞

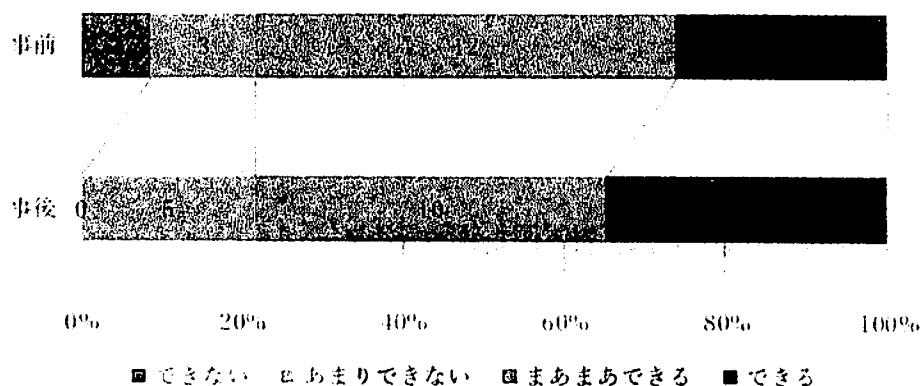
- 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた理由
- ・おとなになって政治に関わることが多くなるから。
 - ・憲法や選挙が生きるために大切だと思ったから。
 - ・政治は現在のことだから。
 - ・自分も税金を払っているから。
 - ・政治のニュースを見て、今日本がどこに向かって進んでいるのかよくわかるから。
- 「あまりそう思わない」と答えた理由
- ・無回答

② 社会科の学習で、どんなときに楽しいと感じる（感じた）か。（複数回答）

楽しいと感じるとき	事前	事後
・インターネットで調べるとき	16人	15人
・社会科見学・校外学習	12人	15人
・教科書や本で調べるとき	11人	13人
・分かったことや思ったことを新聞などにまとめるとき	11人	6人
・話し合いのとき	6人	10人
・取材・インタビュー	5人	6人
・絵や図、写真、グラフ、年表を見たり読んだりするとき	5人	11人
・「どうしてだろう」と思ったことが分かったとき	4人	6人
・調べたことを発表用の資料にまとめるとき	3人	3人
・資料をもとに発表をするとき	1人	2人
・学習問題を作るとき	0人	1人

資料を読みとる活動に対して楽しさを感じようになっていることがわかる。

③ 調べ学習で、自分の力で調べることができる（できた）と思いますか。



<事後アンケートから>

- 「できた」「まあまあできた」と答えた理由
 - ・ テーマを考えてできたから。
 - ・ わかることが増えたから。
 - ・ 自分の力だけではなく、他の人の力も借りたから。
 - ・ 自分の力で調べないと役に立たないから。
- 「あまりできなかった」「できなかった」と答えた理由
 - ・ 友だちに頼ってしまった。
 - ・ 難しいから。
 - ・ 一人では調べることがあまりできない。

④ 学習後の感想

- 政治のしくみを調べるのがおもしろかった。
- 大正～昭和の時代と平成時代はどう変わったのかがわかって楽しかった。今の政治と、昔の政治は、どう変わったか、何が変わったか知ることができた。
- 国は、たくさんの人たちが協力し合って成り立っていることがわかった。震災がおこったときには、ボランティアの人などが活動し、もとの暮らしにもどるようにがんばったことがわかった。

私たちの暮らしにはたくさんの人がかかわっていて、私も国の一人として協力できることはしようと思った。
- 災害が起こった時、お金や技術で助けてもらうためには、色々な所をお願いをしなきゃいけないことがわかった。
- 税金は道路の整備や公園の整備等に役立っていることがわかった。今まで、税金がどこに使われているのかわからなかったから、わかってよかった。
- おとなになったら政治にかかわるので知ることができてよかった。
- 政治のことがよくわかった。政治が私たちの暮らしを支えていることがわかった。
- 自分の身の回りの社会の仕組みを知ることができた。
- わたしたちの社会は市民の協力で成り立っている。
- 政治について勉強してから、ニュースが楽しいと思った。
- 税金で道路整備や教育をしたりして、国のために税をつかっているのがわかった。
- わたしたちのくらしは「税金」や市役所の方と市民が「協力」して成り立っている。

みんなで「助け合う」ことが大切。
- まちの復興に向けて、市役所は住民の願いや意見を取り入れながら、まちづくりの計画を立て、国の協力を受けて実行しているということがわかった。
- 税金のしくみがよくわかった。

市や国が行う仕事は、国民の健康で文化的な生活を支えていることがわかった。
- 政治について、大切なことが学べた。また、政治は生活に役立つことがわかった。おとなになると、政治に関わるが多くなることがわかった。
- 市役所の人話を聞いたりして、地震の被害がすごかったことが心に残っている。

国と県と協力して直したけれど、他の県の被害はもっとすごいことが起きていて、今も苦し

んでいる人がいることが大変だと思った。

- 自分たちの身近な地区の方が、復興会議に参加していることに驚いた。市は、地域の人々の話をきちんと取り入れて仕事をしていることがわかった。